

豊太郎が手記を書いた理由

「舞姫」という物語は、読者にまだ続きがあるのではないかと思わせるような終わり方になっている。私もそう考えた一人である。だから、この物語のほとんどを占めている手記をなぜ豊太郎は書いたのかということを考えることで、この物語の文章になっていない先の部分まで読み解くことができるのではないかと思う。なぜなら、豊太郎はドイツでの出来事に深い後悔の念を抱いていて、そういうものは本来心の奥にしまって閉じ込めておきたいもののはずであるのに、それを思い起こすように手記に残したのは何か理由があるだろうと考えるからだ。

その理由を手記の中で綴られている豊太郎の気持ちを元に考えていきたい。

そしてその結論は、豊太郎はエリスと、やがて生まれるであろう豊太郎とエリスの子に対して、伝えたい思いがあったから手記を書いたのである。

まず、帰国途中の船のなかでの豊太郎について考える。すでにドイツでの大変な出来事があった後なので、豊太郎は苦しい思いに心を悩ませていた。この苦しい思いを消し去りたいが、自分の弱さから起こったことなのでよく知らない人には言えず、ましてやその原因を作った相沢や天方大臣などにも話すことができなかった。だが豊太郎は誰かに自分の悲しみ、苦しみをわかってもらいたかったのだと思う。伝えることでその気持ちが晴れることはないと自分でわかっていながらも、手記に自分の中から吐き出し、誰かに見てもらえる形にすることで、少しでも気休めになるのではと考えたのかもしれない。そうして、豊太郎は手記という手段を使って、誰かに伝えることを考えた。そしてその相手としてまず浮かんでくるのが、豊太郎の愛した人間であるエリスである。なぜなら、豊太郎はエリスを愛し、エリスもまた豊太郎を愛していたと考えている。だから豊太郎にとってエリスは最大の理解者であると認識しているはずだ。そのため豊太郎は、エリスなら自分の苦しみを理解してくれるのではないかと考えたのではないか。そして、豊太郎には帰国途中である今もなお、精神障害に陥ったエリスに伝えきれていないことがあったのだ。それを伝えるためにも、手記を書いたのだと私は考える。

豊太郎は帰国する前に、相沢によってエリスに真実をつげられ、エリスを狂わせてしまった。つまり、エリスは相沢の話のみを信じて、精神障害に陥ってしまったことになる。相沢の話の中に、豊太郎のエリスに対する感情が含まれているはずもない。相沢とは感情よりも損得勘定で動く人間だからだ。その根拠として、相沢と豊太郎の会話で、「伯爵の先入観を無理に動かそうとはしない。伯爵の胸のうちで事実を曲げてかばうやつなどと思われすることは、友達に不利であり、自分にも損だからである」という話から、友達をかばうことよりもその双方にとって損か得かと考えていることがある。豊太郎は相沢のことをよく知っているので、エリスに伝えた内容がどういうものであるか想像できたはずである。だから、豊太郎は手記を通して、豊太郎自信の言葉で、エリスに自分の本当の思いを伝え

たかったのだと思う。この手記の中にはエリスを想う言葉がたしかに書かれている。エリスと別れると相沢と約束したが、エリスが好きで、エリスのことを想うためにできなかったこと、エリスが狂った後も何度も涙を流したことなどがそうだ。

そうして、エリスを残したまま、豊太郎は帰路につくことになる。エリスだけでなく、そのおなかの中の子までも。豊太郎はエリスを深く愛していた。それなのにその子を愛さないはずがない。エリスと同様に愛したはずである。もしエリスが発狂し、帰国することにならなかったならば。だが、子のことは常に気がかりになるはずだ。そして、せめて子どもには幸せになってほしいと願うと考える。子が生まれてきたときに父がいないのではかわいそうだと考え、実際に会うことはできないが、手記を通して父親がどんな人間だったのかということをお伝えしようと思ったのだと思う。そのために、手記の序盤では、自分の優秀さを雄弁に語っている。そして読み進めていくうちに、今エリスとその子と一緒にいられない理由も伝えることができる。この手記を読んだ子供は、おそらくこの最低な父親を嫌うだろう。豊太郎はそれもわかっていた。子供に嫌われることで、自分のような人間にならずにすむようにと考えたのだと思う。

また、手記とは物であるため、どんなに時間がたった後でも読むことができる。エリスは子を生むことで精神障害が治癒するかもしれないし、なにか別のことで回復するかもしれない。豊太郎はそんな期待を抱いて、手記にしたとも考えられる。

以上のことから、豊太郎はエリスとその子供に向けて、自分が本当にエリスを愛していたこと、そのためにどれほど苦しんだのかということをお伝えするために、そして、子どもに父親がどんな人間であるかを伝え、自分のようにならないでほしいという願いを秘め、この手記を書いたのだといえる。